

Welcome to
the Delight World

日本たばこ産業株式会社
2004年3月期事業報告書

Vol.5

株主の皆さまへ

2004年3月期決算のご報告

文豪たちとたばこ

夏目漱石

新商品のご紹介

- マイルドセブン・ファミリー 「D-spec (ディースペック)」(低臭気製品)の積極展開を図る
- 「キャビン・マイルド・メンソール・ボックス」、「ホープ・メンソール」
5月17日より販売エリアを全国に拡大
- 「ルーツ ファインエッジ 微糖」6月7日からリニューアル新発売
- 「烏龍烏龍 (うーろんうーろん)」6月28日から新発売
- 「チキンナゲット」「カレー南蛮ピラフ」6月1日から全国で新発売

MEET YOUR DELIGHT

チャレンジャーたちの軌跡

- ～第3のシガレット革命～「D-spec (低臭気たばこ) Revolution」に挑む! 「前編」

MEET
YOUR
DELIGHT





「JT PLAN-V」達成に向け 順調なスタートがきれたと 考えています。

平素は当社の事業運営に
格別のご高配を賜り
厚く御礼申し上げます。
ここに「Welcome to the Delight World」
(2004年3月期事業報告書)を
株主の皆さまへお届けし、
当社グループの業績ならびに
今後の経営方針について
ご報告申し上げます。

2004年3月期を
振り返って

2004年3月期決算については、お蔭様で当初計画を上回る決算となり、営業利益は最高益となりました。「JT PLAN-V」達成に向け、順調なスタートがきれたと考えております。WHO枠組み条約をはじめとする規制強化、5年ぶりとなる国内でのたばこ税増税、フィリップ・モリス社とのマールボロライセンス契約終了合意といった、厳しい事業環境変化があった一年において、全社を挙げて、「JT PLAN-V」施策の迅速かつ着実な実行に取り組んだ結果であり、計画達成に向け確かな手応えを感じております。

まず、売上高ですが、たばこ税の影響を除いた税抜売上高の増減でご説明いたします。海外たばこ事業、食品事業、その他事業がそれぞれ増収となり、増税に伴う販売数量減などの影響を受け382億円の減収となった国内たばこ事業を補いました結果、税抜売上高は122億円の増収となりました。

した。

利益面では、たばこ事業が大きく貢献しました。国内たばこ事業における販売単価の上昇やコスト削減の推進により、収益性が改善していること、及び海外たばこ事業の利益成長によるものです。

この結果、営業利益、経常利益ともに3期連続の増益となり、昨年に引き続き、最高益を更新いたしました。我々が利益指標として重視するEBITDA（注）についても、3期連続で増益となりました。

また、当期純損益に関しましては、共済年金負担に関する会計方針変更の影響により、2004年3月期は当期純損失となりましたが、これはあくまで会計上の影響であり、キャッシュ・フロー上の影響はございません。

フリー・キャッシュ・フローはEBITDAの増加などにより、対前年988億円増と大幅に増加いたしました。

（注）EBITDA：利払い費用、税金、有形・無形固定資産など償却前の利益

2005年3月期について

2005年3月期は今後私どもが成長戦略に専念できる体制を確立する年でございます。2004年3月期に引き続き、事業体質の強化、コスト構造改革を実施し、強固な成長基盤を構築いたします。特に「JT PLAN-V」でご説明いたしましたとおり、競争力あるコスト構造の構築に向けた諸施策の実施に伴い、相当数の余剰人員が生じてまいります。このため今年度に希望退職の募集や設備の除却などを実施するため、約1,400億円にのぼる事業構造強化費用を

見込んでおります。

各事業の課題ですが、国内たばこ事業については、売上成長戦略とコスト構造改革の両面を通じた諸施策により国内たばこ事業の事業価値増大を図ってまいります。海外たばこ事業につきましては、これまでの基本戦略を踏襲し、GFB（注）の伸張等による利益成長を図ってまいります。医薬事業につきましては、R&Dパイプラインの充実及び事業価値増大の早期実現に向けた積極的な導出活動を推進してまいります。食品事業につきましては、加工食品事業における「JT PLAN-V」売上高目標の1年前倒しと飲料事業の増収、及び2006年3月期の本格黒字化へのステップとして、営業収支均衡を実現したいと考えております。

2005年3月期の業績予想に関しましては、売上高は減収、EBITDAが減益となるものの、営業利益は前年と同水準、経常利益、当期純利益は増益となる見込です。

今年度も2004年3月期に引き続き、全社、全部門で「JT PLAN-V」の諸施策を着実に実行することにより、経営目標の達成に向け、全力で取り組んでまいります。

（注）GFB：グローバル・フラッグシップ・ブランドの略であり、「キャメル」「ウinston」「マイルドセブン」「セーラム」を指します。

配当および 自社株買いについて

当社は、企業価値を中長期的に増大させていくことが、株主の皆様の利益を増大させることの基本と考えております。

配当につきましては、資本市場における競争力ある株主還元を目指すとの基本方針

に基づき、中期経営計画「JT PLAN-V」の経営目標の達成状況及び中長期の収益見通しを踏まえつつ、配当水準の段階的向上を図ってまいります。

また、内部留保資金につきましては、その使途として、足許及び将来の事業投資、外部資源の獲得に充当するとともに、有利

子負債の圧縮、経営の選択肢拡大に向けた自己株式の取得にも努めてまいります。

具体的には、2004年3月期の期末配当金を1株当たり5,000円とし、年間配当金は1株当たり10,000円とさせていただきます。2005年3月期の1株当たりの年間配当予想は10,000円（中間配当5,000円、期末配当5,000円）としております。

なお、2004年3月期においては政府保有株放出計画中という自社株買いにとって難しい環境の中で、初めての自社株買い45,800株を行いました。

また、昨年の金庫株取得に関する商法改正に伴い、今年の定時株主総会において、取締役会決議による自己株式取得を可能とする定款変更をお諮りし、承認を頂きました。これによって、より機動的な自己株式取得の実施に努めてまいります。

（社会における「かけがえのない存在」へ）

当社は、「JT ブランディング宣言」を2002年4月にミッションとして策定しております。たばこ、医薬、食品等の事業をはじめとするあらゆる企業活動を通じて、株主をはじめとするステークホルダーの方々

に「かけがえのないDelight」＝「期待を越える驚き、歓びといった、当社ならではの付加価値」を提供することを「ブランディング」と定義し、それを実現することにより、社会において「かけがえのない存在」になりたいと考えております。

当社は、この「JT ブランディング宣言」に沿った活動を行うことにより、キャッシュフローを成長させ、企業価値の増大を図り、株主をはじめとするステークホルダーの方々の信任を得られる経営に今後とも努めてまいります。

2004年6月

代表取締役社長

本田 勝彦

●将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価等といった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因は多数あります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます。（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。）

(1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大

(2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等

(3) 国内外の訴訟の動向

(4) たばこ事業以外へ多角化する当社の能力

(5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力

(6) 市場における他社との競争激化、銘柄嗜好の変化

(7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響

(8) 国内外の経済状況

(9) 為替変動及び原材料費の変動

2004年3月期実績

(単位：億円)

	2003年3月期	2004年3月期	増減
税込売上高	44,922	46,251	1,328
税抜売上高	20,075	20,198	122
EBITDA	3,372	3,734	361
営業利益	1,889	2,340	450
経常利益	1,732	2,135	403
当期純利益	753	-76	-829
ROE	4.7%	-0.5%	-5.2%
FCF	1,703	2,691	988

2005年3月期業績予想 (2004年4月28日発表)

(単位：億円)

	2004年3月期	2005年3月期見込	増減
売上高	46,251	45,700	-551
EBITDA	3,734	3,620	-114
営業利益	2,340	2,340	0
経常利益	2,135	2,250	115
当期純利益	-76	780	856
ROE	-0.5%	5.1%	5.6%
FCF	2,691	2,000	-691

社長インタビュー



「JT PLAN-V」で掲げた施策は順調に進展していますか。

国内たばこ事業の2003年度の販売数量は2,183億本でした。総需要の減少傾向に加え、増税の影響を受けたことで、対前期107億本の減少となりましたが、私どもが年度当初に見込んでおりました2,170億本と比較いたしますと13億本上回る結果となりました。これは、私どもの積極的な新製品投入、流通力や営業力強化の成果と考えておりますが、加えて最近の景気回復傾向の影響もあると考えております。

市場シェア年度推移は0.4ポイント減の72.9%となり、ここ数年の実績に比較し下落幅が縮小いたしました。市場シェア四半期推移で見ますと、年後半から動きが変わり、2004年1-3月期はわずかながらシェアが上昇いたしました。「JT PLAN-V」公表以降、シェアは下げ止まる兆しを見せているとも考えられます。

「JT PLAN-V」をご説明いたしました際、国内たばこ事業の成長戦略に不可欠な要素として、「伸張セグメントにおけるシェア反転攻勢」という課題を申し上げました。

伸張セグメントである「1mg製品」と「メンソール製品」については、積極的な新商品の投入と販売エリアの拡大、及びそれらブランドを支える営業活動の結果、「JT PLAN-V」公表以降、1mgセグメントでは安定的にシェアを伸張させるとともに、メンソールセグメントでは顕著にその勢いが加速しております。

同様に「300円以上製品セグメント」におきましても、変化が生じております。これまで「JT300円以上製品」の市場シェア上昇は主にマールポロによってもたらされておりましたが、「JT PLAN-V」公表以降、「ルーシア」をはじめとするJTの自社ブランド品もシェア拡大に貢献しております。

「伸張セグメントにおけるシェア反転攻勢」に加え、成長戦略としてもう1点、「第3の市場革命」による市場創出という課題を申し上げます。

日本におけるフィルター革命、チャコール革命に続く「第3の市場革命」として、私どもはD-spec製品による市場創造を目指し、これまでに3つの新商品を市場投入いたしました。

「ルーシア」は全国拡販以降もシェア0.5%程度で推移しており、

既存ブランドの派生商品ではない、全くの新ブランドとしては異例の好成績を収めることができました。また、「マイルドセブン・プライム」の2品も、まだ初期段階ではございますが、好調な販売実績をあげております。

こうした実績は私どもが6年間という歳月をかけて確立した「低臭気」という新たな付加価値をお客様に認めていただいたということであり、非常に嬉しく思っております。そして、D-spec製品が更なる成長の潜在力を秘めている、という手応えも感じております。伸張セグメントにおける変化やD-spec（低臭気）製品の市場浸透は私どもに「JT PLAN-V」で目指した成長戦略を実現する強い意思と実行能力があることを示すものである、と考えております。

海外たばこ事業では、利益成長の牽引役であるGFB販売数量は、2004年1-3月期には前年同期比8.8%増の高い成長となりました。これはロシア、トルコなどで高価格帯へのシフトが進み、ウィンストンが好調であったことが主因でございます。またキャメルは欧州でシェアを伸ばし、マイルドセブンも台湾等で引き続き順調に伸びています。



足許の実績やこれまでの投資によるリターンを考慮すれば、海外たばこ事業がJTグループ利益成長の牽引役としての責務を果たし、「JT PLAN-V」期間を通じて、現在の成長モメンタムを維持していくことは十分可能であると考えております。

医薬事業に関しましては、「JT PLAN-V」において、「R&Dパイプラインの充実」と「事業価値増大の早期実現」を主要課題として取り組んでおります。

2004年3月期におきましては、「『世界レベル』の新薬になりうる化合物の3品目臨床入り」という事業目標達成に向けて、研究開発に取り組んだ結果、臨床入りした化合物はございませんでしたが、前臨床段階の化合物の充実を図ることができました。また、既存の有力パイプラインの導出に向けた活動も積極的に進めてきたところでございます。

2005年3月期におきましても、R&Dパイプラインの充実及び事業価値増大の早期実現に向けた積極的な導出活動を推進してまいります。

食品事業の2004年3月期の売上高につきましては、加工食品における豪州チルド事業での取り組みが大きく寄与するとともに、飲料における不採算販路の整理などによる手売販路の減少を自販機販路の着実な拡大によりカバーした結果、対前年比177億円増収の2,501億円となりました。

また、2004年3月期の食品事業営業利益につきましては、売上高増による限界利益の増加、労務費、販促費及び広告宣伝費などの事業全般にわたる経費削減に加え、連結調整勘定償却費などの減少により、対前年比83億円の大幅な改善を実現し、マイナス48億円となりました。

今期につきましては、2006年3月期に向けたステップの年として位置づけ、売上高目標といたしまして、加工食品事業は、「JT PLAN-V」売上高目標の1年前倒し、飲料事業は、不採算販路の整理、事業全般にわたる効率化の中で増収、を目指してまいります。

また、営業利益につきましては、2006年3月期の本格黒字化へのステップとして、収支均衡を実現したいと考えております。

その他事業に関しまして、私どもの方針は従来より一貫しております。

すなわち、自立化に向けた取り組みを加速させ、自立化の見通せない事業に関しましては抜本的構造改革を実施いたします。「JT PLAN-V」公表以降、諸施策を意思決定もしくは実行してまいります。

加えて、保有不動産の価値向上を図りつつ、中核事業への経営資源の集中を行うことを目的として、J-REITの早期上場を目指し、鋭意準備を進めているところでございます。

2005年3月期は、マールボロに

関する契約が終了する2006年3月期以降、私どもが成長戦略に専念できる体制を確立する年と位置付けております。

今年度も2004年3月期に引き続き、全社、全部門で「JT PLAN-V」の諸施策を着実に実行することにより、経営目標の達成に向け、全力で取り組んでまいります。

政府保有株の売出が行われましたが、これによって何が変わりますか。

これまでの、JTの発行済株式総数の3分の2以上の政府保有が義務づけられておりましたが、2002年4月に日本たばこ産業株式会社法が改正され、政府の保有義務は100万株（発行済株式総数の2分の1）以上に引き下げられました。これに伴い、今回政府保有の約29万株が放出されました。

また同時に100万株未満までの新株発行が可能となり、資本政策の機動性と自由度が高まりました。新株発行がすべて実行された後は、政府の株式保有比率は、発行済株式総数の3分の1超となります。

今回の売出しによって、新たな株主の皆様をお迎えすることを大変嬉しく思うとともに、皆様にご評価いただけるよう、一層の経営努力を重ねてまいります。



営業の概況

たばこ事業

国内たばこ事業につきましては、売上成長戦略として、伸張セグメントであるタール1mg市場、メンソール市場及びプレミアム市場を中心に新製品の積極的投入を行い、また、地域限定で発売していた新製品のうち、お客様の支持が強い製品について販売エリアの拡大を行うとともに、市場特性に応じた積極的かつ効率的な販売促進活動に努めました。具体的には、地域限定新製品として、「ホープ・メンソール」(昨年5月愛知県限定)、「キャビン・マイルド・メンソール・ボックス」(昨年8月宮城県限定)、「マイルドセブン・ワン・メンソール・ボックス」(本年1月近畿地方以东・沖縄県限定)、「マイルドセブン・プライム・メンソール・ライト・ボックス」(本年3月東京都限定)等14銘柄を投入いたしました。また、D-spec(低臭気)機能を付加した「ルーシア・シトラスフレッシュ・メンソール」(昨年11月全国拡販)、「マイルドセブン・プライム・スーパーライト・ボックス」(本年3月全国拡販)をはじめとした4銘柄の販売エリア拡大を行いました。

なお、「ホープ・メンソール」と「キャビン・マイルド・メンソール・ボックス」についても、本年5月から全国拡販を行いました。また、競争優位性の強化のため、「マイルドセブン」ファミリー主力7銘柄のデザインを本年3月中旬以降4月下旬にかけて順次全面刷新いたしております。

コスト構造改革といたしましても、これまで様々な施策に取り組んでおります。具体的には、国内に25カ所あったたばこ製造工場のうち、2003年3月末から2005年3月末にかけて14工場を閉鎖するとともに、2005年4月に1工場の機能転換を行い、全国10工場体制といたします。このうち、昨年3月末に3工場、本年3月末に4工場を閉鎖しております。また、昨年7月

には、国内原料部門の組織再編を2004年7月から2006年4月にかけて段階的に実施することを決定し、昨年9月には、2005年6月末に6カ所の支店の統廃合を行うことを決定いたしました。さらに、本年4月には、当社グループの外国産業たばこ原料購買機能の最適化に向けた一部組織の変更や当社のたばこ流通子会社6社の合併を行うなど、コスト競争力強化に向けた施策を順次進めております。

当連結会計年度における国産紙巻たばこの販売数量は、総需要の減少傾向が続く中、昨年7月のたばこ税の増税実施に伴う定価改定の影響により、前年度に比べ107億本減少し、2,183億本(注)(前年度比4.7%減)、シェアは72.9%(前年度比0.4ポイント減)となりました。一方、千本当税売上高は、価格戦略の効果等により3,908円(前年度比53円増)となりました。

海外たばこ事業につきましては、子会社JT International S.A.を中核として、継続的かつ効果的な販売促進活動等により、持続的な成長に向けて積極的に事業を展開いたしました。収益力強化策といたしましては、GFBにおけるブランド価値強化の一環として、一昨年の「キャメル」の世界的なリニューアルの実施に続き、昨年は「セラム」の世界的なリニューアルを実施し、昨年7月よりアジアを皮切りに順次投入地域を拡大しております。

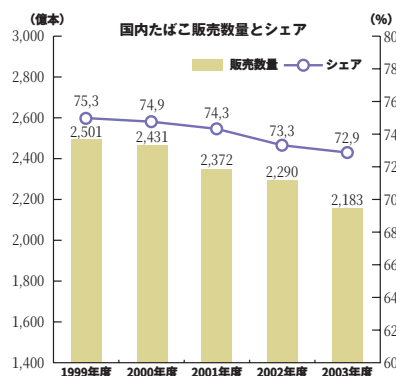
こうした取り組みにより、当連結会計年度における海外の紙巻たばこの販売数量は、前年度に比べ45億本減少し、1,988億本(注)(前年度比2.2%減)となりましたが、高価格製品であるGFBの販売数量は、ロシアにおいて「ウィンストン」の販売数量が増加したことや、台湾において「マイルドセブン」が好調であったこと等から、前年度に比べ78億本増加し、1,175億本(前年度比7.1%増)と、順調な成長を見せました。

(注) 中国・香港・マカオ市場については、当社の中国事業部が直轄しております。国内免税市場及び中国・香港・マカオ市場の当連結会計年度における販売数量は64億本ですが、当該数値には含まれておりません。

この結果、国内たばこ事業における定価改定の実施や新製品の積極的な投入等、海外たばこ事業におけるGFBの販売数量の伸張等により、売上高は4兆2,369億円(前年度比2.5%増)となりました。利益面では、国内たばこ事業におけるコスト削減や販売単価の上昇、海外たばこ事業における利益成長等により、営業利益は2,384億円(前年度比11.7%増)となりました。

なお、海外たばこ事業については、2003年1~12月の実績を当連結会計年度の実績としております。

また、当連結会計年度における紙巻たばこの生産数量は、3,962億本(前年度比2.8%減)となりました。



医薬事業

医薬事業につきましては、自社における研究開発力の一層の充実・強化を図るとともに、国内外の研究機関等と共同で研究開発を進めてまいりました。開発状況としては、5月20日現在、自社開発品4品目が臨床試験の段階にあります。なお、藤沢薬品工業(株)と国内における第3相臨床試験からの共同開発及び共同販売契約を締結

し、国内で第2相臨床試験を終えた段階にあった抗炎症薬につきまして、昨年9月、臨床開発の中止を決定するとともに、同社との契約についても終了いたしました。一方、昨年7月、米国ギリアド・サイエンシズ社と抗HIV薬3品の日本における独占的商業化権を取得するライセンス契約を締結し、3品のうち「ビリアード」につきましては、本年3月に当社が輸入承認を取得し、4月より鳥居薬品(株)において販売を開始いたしました。

米国アグロン社と共同開発し、米国、欧州及び日本等で販売しております抗HIV薬「ビラセプト」につきましては、市場における競争の激化を受け、ロイヤリティ収入は減少いたしました。また、鳥居薬品(株)につきましては、主力品である蛋白分解酵素阻害剤「注射用フサン」の後発品の影響等により売上高は減少いたしました。

この結果、「ビラセプト」のロイヤリティ収入の減少及び鳥居薬品(株)の売上高の減少により、売上高は512億円（前年度比5.0%減）となりました。利益面では、当社における研究開発費の減少や鳥居薬品(株)の前年度における早期退職優遇措置の実施による人件費の減少等により、営業損失は前年度に対し10億円減少し、128億円（前年度比7.3%減）となりました。

臨床開発品目(2004年5月20日現在)

開発名	適応症	開発段階
JTE-607(注)	全身性炎症反応症候群	国内:Phase2 海外:Phase1
JTT-705(経口)	高脂血症	海外:Phase2 国内:Phase1
JTK-003(経口)	C型肝炎	国内:Phase2 海外:Phase1
JTT-130(経口)	高脂血症	国内:Phase1 海外:Phase1
エムトシタピン(経口)	抗HIV	申請準備中
フマル酸テノホビル ジソプロキシル、 エムトシタピンの 配合剤(経口)	抗HIV	申請準備中

食品事業

食品事業につきましては、新商

品の開発、投入及び販売チャネルの強化に努めるとともに、市場状況に応じた弾力的かつ機動的な事業運営を行い、事業価値の増大を積極的に推進いたしました。

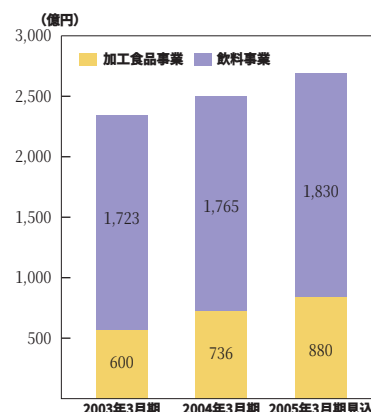
加工食品事業においては、市販用冷凍食品の「大人気!」シリーズ、「いまどき和膳」シリーズ等のラインナップの充実・強化に努めるとともに、事業全般にわたる経費の低減を図り、収益力を強化いたしました。また、豪州におけるチルド加工食品事業の更なる事業価値の向上を目指し、子会社Hans Continental Smallgoods Pty. Ltd. による基軸原料の安定調達を目的とした豪州Swickers Kingaroy Bacon Factory Pty. Ltd. の株式の過半数取得(昨年9月)に加え、製造基盤の拡大・強化を図るため、昨年12月には豪州OSI International Foods Australia Pty. Ltd. のハム・ソーセージ事業部門を取得いたしました。

飲料事業においては、不採算販路の整理等により手売販路は減少したものの、自動販売機オペレーター子会社である(株)ジャパンビバレッジを中心とした自動販売機販路は着実に拡大いたしました。「ルーツ」シリーズについては、ラインナップを充実・強化し、昨年9月に、レギュラーコーヒーのようなほのかな酸味を再現する、独自の「低pH 技術」を用いた「ルーツライブボディ」の発売にあわせ、全面刷新いたしました。また、発酵度の高い烏龍茶葉のみを使用した「紅烏龍」をシリーズ化し、本年2月にはMBP（ミルク・ベーシック・プロテイン）配合の機能性飲料「セノビー」をリニューアルするなど新商品を積極的に投入いたしました。

この結果、加工食品事業における事業規模の拡大、飲料事業における自動販売機販路の伸張や連結範囲の拡大等により、売上高は2,501億円（前年度比7.6%増）となりました。利益面では、売上高の拡大、収益力の強化及び連結調

整勘定償却額の減少等により、営業損失は前年度に対し83億円減少し、48億円（前年度比63.2%減）となりました。

なお、昨年4月1日、営業力の強化及び業務の効率化を目的として、加工食品の販売子会社であるジェイティフーズ(株)と、飲料製品の販売子会社であるジェイティ飲料(株)を合併いたしました（存続会社：ジェイティフーズ(株)）。



その他事業

その他事業につきましても、積極的かつ効率的な事業運営に努めました。

この結果、売上高は868億円（前年度比21.5%増）、営業利益は119億円（前年度比1,184.2%増）となりました。

なお、アグリ事業については、昨年6月末に撤退いたしました。また、中核事業への経営資源の集中を進める観点から、子会社(株)ジェイティ徳島プリンスホテルにおいて運営してまいりました「徳島プリンスホテル」の事業については、本年3月末に(株)プリンスホテルへ営業譲渡いたしました。さらに、本年4月には、印刷事業関連の子会社3社（ジェイティブロスプリント(株)、特許紙器(株)、(株)ジービーワン）の当社が保有する全株式を凸版印刷(株)へ譲渡いたしました。

■ 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	2004年3月期 (2004年3月31日現在)	対前期増減
資産の部		
流動資産	1,477,848	131,483
固定資産	1,551,151	△ 60,130
有形固定資産	708,221	△ 25,092
建物及び構築物	299,538	△ 11,829
機械装置及び運搬具	142,089	△ 6,868
土地	179,368	1,694
その他	87,223	△ 8,087
無形固定資産	610,506	△ 101,622
連結調整勘定	331,580	△ 50,020
商標権	245,598	△ 42,915
その他	33,327	△ 8,685
投資その他の資産	232,423	66,584
繰延資産	83	65
資産合計	3,029,083	71,418

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・マネジメント・システムでの資産管理の進展により運用資産が増加しました。

「連結調整勘定」とは事業取得時の取得価額と時価純資産額との差額です。RJRインターナショナル(現JTインターナショナル)や鳥居薬品(株)、(株)ユニマットコーポレーション(現(株)ジャバンビバレッジ)株式取得時に生じました。

商標権の主な内容は、RJRインターナショナル(現JTインターナショナル)の株式取得時にあわせて取得したCAMEL、Winston、Salemといったグローバル・フラッグシップ・ブランドの商標権です。

(単位:百万円)

科 目	2004年3月期 (2004年3月31日現在)	対前期増減
負債の部		
流動負債	756,712	161,970
固定負債	710,609	21,413
負債合計	1,467,322	183,383
少数株主持分		
少数株主持分	53,824	2,752
資本の部		
資本金	100,000	—
資本剰余金	736,400	—
利益剰余金	763,770	△ 26,142
その他有価証券評価差額金	14,185	11,553
為替換算調整勘定	△ 71,839	△ 65,549
自己株式	△ 34,579	△ 34,579
資本合計	1,507,937	△ 114,717
負債、少数株主持分及び資本合計	3,029,083	71,418

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

共済年金負担*に係る負債額を退職給付引当金に含めて計上したことを主因に、負債額は増加しました。

* 共済年金負担とは、公的年金負担に要する費用のうち、昭和31年6月以前(公共企業体職員等共済組合法施行日前)の給付対象期間に係る共済年金給付費用の負担であり、事業主が負担することとされています。共済年金負担については従来、支出時に費用計上していましたが、財務体質の一層の健全化に向けて、2003年4月より適用された独立行政法人会計基準の改訂も踏まえ、2004年3月期より当該共済年金負担に係る負債額を算定し、退職給付引当金に含めて計上することとしました。

2003年10月、45,800株の自社株買いを行いました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	対前期増減
売上高	4,625,151	132,887
売上原価	3,684,012	114,618
売上総利益	941,138	18,268
販売費及び一般管理費	707,104	△ 26,802
営業利益	234,034	45,070
営業外収益	10,321	981
営業外費用	30,755	5,683
経常利益	213,599	40,368
特別利益	29,356	11,009
特別損失	250,564	201,483
税金等調整前当期純利益	△ 7,607	△ 150,105
法人税、住民税及び事業税	67,487	7,481
法人税等調整額	△ 72,301	△ 74,109
少数株主利益	4,808	△ 573
当期純損益	△ 7,602	△ 82,904

国内たばこ事業におけるたばこ税の増税に伴う定価改定、海外たばこ事業におけるGFBの販売数量の伸張等により増収となりました。

国内たばこ事業をはじめとする各事業におけるコスト削減等により増益となりました。

特別損失が大幅に増加していますが、その太宗は財務体質健全化に向けて、共済年金給付負担金を費用として一括処理したために発生したものです(185,095百万円)。

共済年金給付負担金一括処理の影響を除いて試算すると、当期純損益は増益となります。

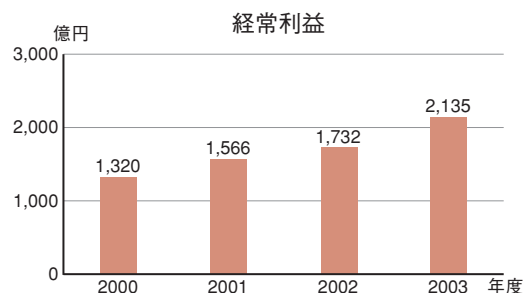
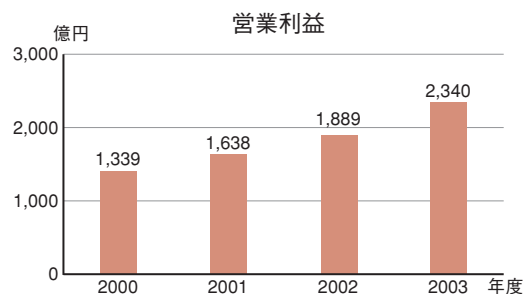
(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	対前期増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	334,501	76,444
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 228,619	△ 153,742
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 109,334	2,633
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4,390	△ 1,080
現金及び現金同等物の増減額	△ 7,843	△ 75,745
現金及び現金同等物の期首残高	602,644	68,140
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	6,860	6,621
現金及び現金同等物の期末残高	601,661	△ 983

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	2003年3月期 (2003年3月31日現在)	2004年3月期 (2004年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	898,537	989,485
現金及び預金	69,383	59,090
受取手形	525	524
売掛金	53,408	51,477
有価証券	18,567	23,561
商品	2,394	2,002
製品	30,071	29,434
半製品	175,351	160,900
原材料	107,370	99,285
仕掛品	14,158	6,569
貯蔵品	8,773	8,436
前渡金	27,098	19,985
前払費用	6,762	5,364
繰延税金資産	13,295	23,634
キャッシュ・マネジメント・システム預託金	349,394	481,534
その他	23,313	17,946
貸倒引当金	△ 1,331	△ 263
固定資産	1,611,087	1,619,727
有形固定資産	518,170	485,601
建物	243,197	229,383
構築物	12,351	11,227
機械及び装置	77,923	68,735
車両及び運搬具	209	212
器具及び備品	12,578	12,663
土地	154,798	153,955
建設仮勘定	17,112	9,423
無形固定資産	214,339	177,043
営業権	1,465	3
特許権	17,883	14,100
借地権	126	126
商標権	179,463	150,868
意匠権	34	20
ソフトウェア	14,958	11,576
その他	408	347
投資その他の資産	878,576	957,083
投資有価証券	55,244	58,393
関係会社株式	762,365	769,041
関係会社出資金	1,661	2,112
関係会社長期貸付金	11,577	17,289
長期前払費用	10,236	9,109
繰延税金資産	38,348	91,591
その他	9,720	15,971
貸倒引当金	△ 4,057	△ 3,490
投資評価引当金	△ 6,518	△ 2,937
資産合計	2,509,624	2,609,212

(単位:百万円)

科 目	2003年3月期 (2003年3月31日現在)	2004年3月期 (2004年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	326,512	475,156
買掛金	16,883	16,397
一年以内返済予定の長期借入金	46,324	17,424
一年以内償還予定の社債	—	122,000
未払金	64,793	81,532
未払費用	6,768	8,423
未払たばこ税	49,122	57,136
未払たばこ特別税	14,830	14,987
未払地方たばこ税	62,866	71,160
未払法人税等	24,754	28,669
未払消費税等	23,780	31,605
前受金	914	1,035
預り金	1,139	1,723
前受収益	390	174
賞与引当金	11,865	21,050
その他	2,079	1,835
固定負債	549,926	576,579
社債	272,000	150,000
長期借入金	63,219	45,795
退職給付引当金	175,772	326,704
役員退職慰労引当金	313	327
預り敷金及び保証金	37,051	37,905
その他	1,568	15,846
負債合計	876,438	1,051,736
資本の部		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	736,400	736,400
資本準備金	736,400	736,400
利益剰余金	795,785	744,134
利益準備金	18,776	18,776
任意積立金	711,705	642,887
特別償却準備金	407	320
圧縮記帳積立金	43,678	52,581
圧縮記帳特別勘定	10,119	5,485
別途積立金	657,500	584,500
当期末処分利益	65,303	82,469
その他有価証券評価差額金	1,000	11,521
自己株式	—	△ 34,579
資本合計	1,633,185	1,557,476
負債及び資本合計	2,509,624	2,609,212

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	2003年3月期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
売上高	2,641,892	2,694,310
売上原価	2,098,798	2,126,538
売上総利益	543,093	567,771
販売費及び一般管理費	420,242	408,331
営業利益	122,850	159,439
営業外収益	17,085	15,205
受取利息	270	364
有価証券利息	267	136
受取配当金	10,227	8,093
関係会社賃貸収入	2,561	2,531
その他	3,758	4,079
営業外費用	18,542	20,324
支払利息	2,214	1,403
社債利息	4,856	4,861
たばこ災害援助金	713	3,641
為替差損	2,698	2,790
共済年金給付費用	—	2,776
貸倒引当金繰入額	—	183
投資評価引当金繰入額	1,189	—
その他	6,871	4,668
経常利益	121,393	154,320
特別利益	16,477	30,458
固定資産売却益	15,190	16,624
退職給付制度一部終了益	—	9,870
投資評価引当金戻入益	—	3,571
その他	1,287	391
特別損失	39,863	237,517
固定資産売却損	2,709	3,570
固定資産除却損	6,956	9,141
事業構造強化費用	6,485	32,015
事業整理損	1,867	5,730
投資有価証券評価損	10,901	366
投資有価証券売却損	5,047	906
共済年金給付負担金一括処理額	—	185,095
退職給付会計基準変更時差異処理額	4,803	—
その他	1,093	692
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	98,007	△ 52,738
法人税、住民税及び事業税	37,884	47,495
法人税等調整額	2,894	△ 70,700
当期純利益又は当期純損失(△)	57,228	△ 29,533
前期繰越利益	16,075	20,003
共済年金給付負担積立金取崩高	—	102,000
中間配当額	8,000	10,000
当期末処分利益	65,303	82,469

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位:百万円)

科 目	2003年3月期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
当期末処分利益	65,303	82,469
任意積立金取崩額		
特別償却準備金取崩額	94	89
圧縮記帳積立金取崩額	1,965	2,049
圧縮記帳特別勘定取崩額	5,075	5,137
別途積立金取崩額	73,000	—
合計	145,439	89,746
利益処分額		
利益配当金	12,000 (1株につき6,000円)	9,771 (1株につき5,000円)
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	118 (23)	114 (20)
任意積立金		
特別償却準備金	7	—
圧縮記帳積立金	10,868	7,782
圧縮記帳特別勘定	441	3,342
共済年金給付負担積立金	102,000	—
別途積立金	—	48,700
次期繰越利益	20,003	20,035

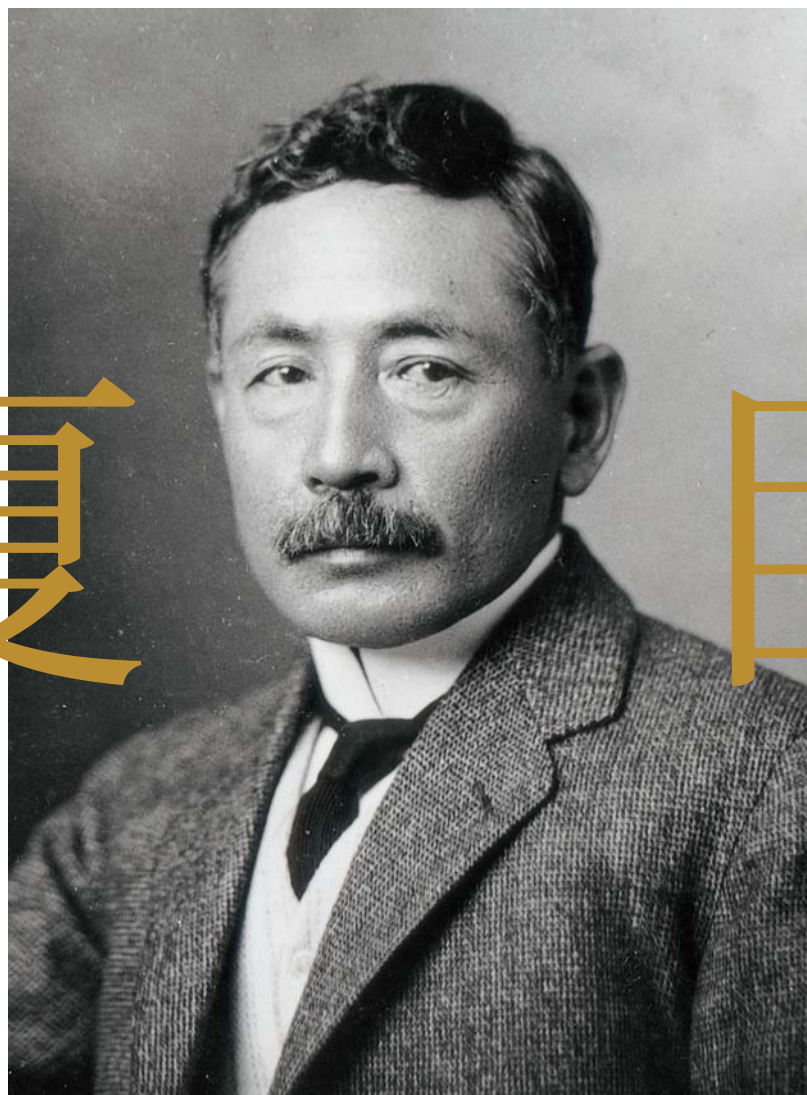
(注) 1. 特別償却準備金、圧縮記帳積立金及び圧縮記帳特別勘定の取崩額並びに特別償却準備金、圧縮記帳積立金及び圧縮記帳特別勘定の積立額は、租税特別措置法に基づくものであります。

2. 別途積立金の取崩額及び共済年金給付負担積立金の積立額は、平成16年3月期における共済年金負担金の引当金計上に備えるためのものであります。

3. 平成14年12月10日に8,000百万円(一株につき4,000円)の中間配当を実施いたしました。

4. 平成15年12月2日に10,000百万円(一株につき5,000円)の中間配当を実施いたしました。

夏目



人間の内面に対する
深い内省と、
それに裏打ちされた
独特のユーモア感覚。
多くの名作を世に送り出した
文豪・夏目漱石。
彼の作品に登場するたばこは、
どのような描かれて
いるのだろうか。



漱

明治の文豪としてあまりに有名な夏目漱石。その作品の中には、たばこを吸う人物が数多く登場する。

『我輩は猫である』では、苦沙弥先生が「日の出」を輪に吹いたり、「朝日」をすばすば吸い始める、という描写が出てくる。「日の出」は明治35年に岩谷商会から、「朝日」は明治37年に専売局から発売され、共に当時の人気銘柄であった（ちなみに、「日の出」は20本5銭、「朝日」は20本6銭。ランク的には中の上といったところか）。また、この作品だけでも、たばこの描写について「吹かす」「のむ」「すう」「火をつける」という表現が使われる。

さらに、登場人物によっても「吸わせるたばこ」を変えている。主人公と思われる人物は紙巻きたばこを吸うが、重要な脇役にはそれ以外のたばこを吸わせている。例えば『三四郎』に登場する原口

のパイプ、『坊ちゃん』の赤シャツは琥珀のパイプ、『それから』では誠吾の葉巻などである。漱石は、たばこを吸うという「小さな行為」に「大きな注意」を払い、細やかな表現を心掛けていたと言えるだろう。

「けむり」に限ってみても同じことが言える。これは『三四郎』の中の一節である。

「広田先生はそれで話を切った。鼻から例によって煙を吐く。与次郎はこの煙の出方で、先生の気分をうかがう事ができると言っている。濃くまっすぐほとばしる時は、哲学の絶頂感に達した際で、ゆるくくずれる時は、心気平穩、ことによると冷かされる恐れがある。

煙が、鼻の下に低徊して、髭に未練があるように思える時は、瞑想に入る。もしくは詩的感興がある。

最も恐るべきは鼻の先の渦である。渦が出ると、たいへんしから

石

れる。与次郎の言う事だから、三四郎は無論当てにしない。

しかしこの際だから気をつけて煙の形状をながめていた。すると与次郎の言ったような判然たる煙はちっとも出て来ない。そのかわり出るものは、たいていな資格をみんなそなえている。」——非常によく観察された表現である。漱石は「けむりは芸術である」と言っていたという。

漱石は「たばこ」というものに非常に愛着を持っていたのであろう。鏡子夫人の記憶をたどった『漱石の思い出』（夏目鏡子述／松岡譲筆録）にも、漱石は、病床にあっても葛湯や水のほかに「時々煙草を吸われた」と記されている。

彼はけむりの先に何を見ていたのか。行間からにじみ出る漱石のたばこへの愛情を見るにつけ、そんな質問をしたくなる。

■「マイルドセブン」ファミリー主力7銘柄のデザインを全面刷新 [2004年2月23日発表]

JTは、「マイルドセブン」ファミリーの主力7銘柄のデザインを全面的に刷新しました。

「マイルドセブン」ファミリーは約四半世紀にわたり、国内ナンバーワンブランドの座を独走していますが、お客様の嗜好の多様化により、1997年下半期の35.0%以降、シェアは微減傾向が続いていました。このような中、昨年3月に270円ソフトバック市場に向けて「マイルドセブン・ワン」(発売当時250円)、同11月にファミリー初のD-spec(低臭気※)製品として「マイルドセブン・プライム・スーパーライト・ボックス」、本年1月と3月に、両銘柄のメンソール製品2銘柄を発売するなど、この1年で大型新製品を4銘柄投入しました。こうした新製品展開が寄与したこと等により、シェアは、32.5%(2002年下期実績)から32.6%(2003年上半期実績)へと推移し、5年半(11半期)ぶりに上昇しました。

こうした勢いを確実なものとし、さらに加速させるため、大型新製品投入の次なる取り組みとして、主力7銘柄のデザインを全面的に刷新することとしました。

また、今回のデザイン変更に併せて、タール1mgの「マイルドセブン・ワン・ボックス」「マイルドセブン・ワン・100's・ボックス」については、「マイルドセブン・ワン」の喫味に統一します。

マイルドセブン

フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 10mg
ニコチン値 0.8mg
20本入りソフトバック
270円

●発売以来一貫して踏襲してきた、パッケージ左側の縦の帯を廃止

●“ブルー・ウィンド”をパッケージ正面中央に大きく配置した、顯示性が高くインパクトのあるデザイン

●背景色は一色に。白とブルーのコントラストをこれまで以上に引き立て、喫味特徴である“すっきりとした味・香り”をシンプルに表現



●縦に表記していたブランド名「MILD SEVEN」を横に表記

●タール値をパッケージ下部の中央に記載。タール値が高いほど背景色を濃いブルー、低いほど薄いブルーとし、タール1mg製品は白地に

※JT独自の新技术“D-spec(低臭気)”について

たばこ本来の味・香りは極力活かし、気になるにおいを抑える効果のあるシトラスフレーバー香料(特許出願済み)を開発・採用して、たばこの気になるにおいを低減しました。JTが1996年から「においの少ないたばこ」の基礎研究を開始して以来、約6年を費やして開発に成功した新技术です。

なお、当技術に加え、別の製法も取り入れ、たばこの先から立ち昇る煙(副流煙)を抑えています(当社従来品比)。



マイルドセブン・ライト

フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 8mg
ニコチン値 0.7mg
20本入りソフトバック
270円



マイルドセブン・スーパーライト
フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 6mg
ニコチン値 0.5mg
20本入りソフトバック
270円



マイルドセブン・エクストラライト
フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 3mg
ニコチン値 0.3mg
20本入りソフトバック
270円



マイルドセブン・ワン

フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 1mg
ニコチン値 0.1mg
20本入りソフトバック
270円



マイルドセブン・ワン・ボックス
フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 1mg
ニコチン値 0.1mg
20本入りハードバック
270円



マイルドセブン・ワン・100's・ボックス
フィルター付きスーパーキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 1mg
ニコチン値 0.1mg
20本入りハードバック
270円

■平成15年度紙巻たばこ販売実績について [2004年4月28日発表]

社団法人日本たばこ協会（TIOJ）は、「平成15年度紙巻たばこ販売実績」を、4月28日、発表しました。

全体のうち、JT製品の販売数量は2,183億本（シェアは72.9%）で、外国たばこは811億本（シェアは27.1%）

でした（単位未満四捨五入のため、不符合場合があります）。

※詳細については、JTホームページ「JT delight world」をご参照ください。

1. 紙巻たばこ販売実績

（単位：億本、億円、%）

年 度	販売数量		販売価額	
	数 量	対前年比	金 額	対前年比
平成14年度	3,126	97.9	40,187	97.9
平成15年度	2,994	95.8	40,660	101.2

2. 紙巻たばこ上位20銘柄販売実績（平成15年度）

（単位：百万本、%）

順位	銘 柄	数 量	シェア	順位	銘 柄	数 量	シェア
1	マイルドセブン・ライト	25,746	8.6	11	ホープ（10）	4,659	1.6
2	マイルドセブン・スーパーライト	25,071	8.4	12	セーラム・ピアニッシモ	4,503	1.5
3	マイルドセブン	23,064	7.7	13	マールボロ・ボックス	4,162	1.4
4	セブンスター	19,203	6.4	14	ケント・ワン・100's ボックス	4,075	1.4
5	キャスター・マイルド	12,447	4.2	15	マールボロ・ライト・ボックス	3,927	1.3
6	マールボロ・ライト・メンソール・ボックス	10,042	3.4	16	マイルドセブン・ワン	3,760	1.3
7	マイルドセブン・エクストラライト	7,676	2.6	17	マイルドセブン・ワン・100's ボックス	3,325	1.1
8	ラーク マイルド KS ボックス	6,488	2.2	18	ピース・ライト・ボックス	3,223	1.1
9	キャビン・マイルド・ボックス	6,368	2.1	19	ハイライト	3,157	1.1
10	フロンティア・ライト・ボックス	4,747	1.6	20	ケント・ワン・ボックス	3,017	1.0

（注）シェアは国産＋外国紙巻たばこ計に占めるシェア。

■抗HIV薬「ビリアード®錠300mg」の新発売について [2004年4月5日発表]

JTでは、抗HIV薬「ビリアード®錠300mg」（一般名：フマル酸テノホビル ジソプロキシル）の輸入承認を3月25日に取得したところですが、4月2日に薬価収載されたことを受け、JTグループの鳥居薬品株式会社（本社：東京、社長：松尾 紀彦）において、4月12日から本剤の販売を開始しました。

本剤は、米国ギリアド・サイエンシズ社（本社：米国カリフォルニア州、社長：ジョンC.マーチン）が開発し、米国では2001年10月に、欧州では2002年2月に承認を取得し、既に「Viread®」として販売さ

れています。

JTでは、本剤の日本における独占的商業化権を取得するライセンス契約を昨年7月にギリアド・サイエンシズ社と締結して以降、輸入承認申請の準備を鋭意進め、本年1月19日に申請を行っていました。

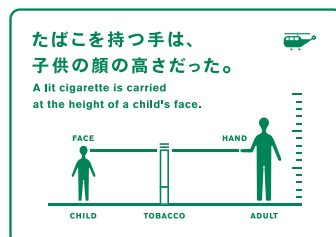
JTグループでは、現在、抗HIV薬「ビラセプト®錠」（プロテアーゼ阻害剤）の販売を行っており、抗HIV薬「ビリアード®錠300mg」の上市により、HIV領域における医療に一層の貢献ができるものと考えています。

■新喫煙マナー広告 [2004年3月12日発表]

JTは、たばこを吸われる方と吸われない方が共存できる社会の実現に向けた取り組みの一環として、たばこメーカーとして喫煙マナー向上活動への決意表明を盛り込んだ新たな喫煙マナー訴求広告を、これまでにない規模、表現で全国のテレビ、新聞、交通機関、街頭等において3月14日から31日まで集中的に実施しました。

今回の新喫煙マナー広告では、従来のように単に喫煙マナーを訴えるだけではなく、たばこを吸われる方、吸われない方双方に配慮した喫煙環境向上活動への対応不足をJT自らが認識し、かつ、たばこを吸われる方一人ひとりのマナーの向上が絶対不可

欠のものと考え、従来以上に踏み込んだ表現を用いて強く訴えていく内容としました。なお、他にも喫煙マナーに対して意識をお持ち頂けるよう、イラストを多用した広告を新聞紙面、交通機関、街頭等で実施します。



新製品のご紹介



販売エリア
全国拡大

フィルター付きキングサイズ
デュアルチャコールフィルター
タール値 6mg
ニコチン値 0.4mg
20本入り ハードバック
300円



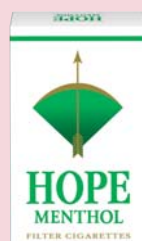
東京都
限定発売

フィルター付きキングサイズ
プレーンフィルター
タール値 6mg
ニコチン値 0.4mg
20本入り ハードバック
300円



販売エリア
全国拡大

フィルター付きキングサイズ
プレーンフィルター
タール値 7mg
ニコチン値 0.6mg
20本入り ハードバック
280円



販売エリア
全国拡大

フィルター付きレギュラーサイズ
プレーンフィルター
タール値 8mg
ニコチン値 0.6mg
10本入り
シェル&スライドボックス
140円

「マイルドセブン・プライム・スーパーライト・ボックス」 3月1日より全国へ拡大発売

「マイルドセブン・プライム・メンソール・ライト・ボックス」 3月1日より東京都限定発売

JTは、東京都において発売中の低臭気製品「マイルドセブン・プライム・スーパーライト・ボックス」(以下、「プライム」)の販売エリアを3月1日より全国に拡大しました。加えて、同日より、「プライム」のメンソール製品「マイルドセブン・プライム・メンソール・ライト・ボックス」(以下、「プライム・メンソール」)を東京都限定で発売しました。また、“低臭気”に代わる新カテゴリー名称については、応募総数約21万通の中から「D-spec(ディースペック)」にて決定し、低臭気製品はD-spec製品として表記しております。

「マイルドセブン・プライム・スーパーライト・ボックス」

●たばこの気になるにおいを抑え、マイルドセブン・ファミリー特有のすっきりとした味と香りを気軽に楽しめる

タール6mgの製品です。

●パッケージは、「マイルドセブン・ワン」で好評を頂いているシンボルマーク“ブルーウインド”を採用するとともに、青と白を基調に左右のグラデーション処理を施し、新分野の製品にふさわしいデザインに仕上げました。

●ネーミングに採用した「プライム」には、「最良の」「第一等の」という意味があり、今後プレミアム市場の牽引役としての期待を込めています。

「マイルドセブン・プライム・メンソール・ライト・ボックス」

●たばこの気になるにおいを抑え、マイルドセブン・ファミリー特有のすっきりとした味・香りと、ミント香気を効かせたメンソールならではのクーリング感(清涼感)を実現したタール6mgのメンソール製品です。

●パッケージデザインは、「マイルドセブン・プライム・スーパーライト・ボックス」を踏襲し、全面にミンティグリーンを配することで、特徴的なミントの香りのクーリング感を表現しています。

「キャビン・マイルド・メンソール・ボックス」 「ホープ・メンソール」

5月17日より販売エリアを全国に拡大

JTは、宮城県において販売中の「キャビン・マイルド・メンソール・ボックス」と、東京都・愛知県・大阪府において販売中の「ホープ・メンソール」を5月17日より、販売エリアを全国に拡大して発売しました。

「キャビン・マイルド・メンソール・ボックス」

●ストレートなメンソール感とスッキリした後口が特徴のタール7mgのメンソール製品です。キャビンファミリーの特長である「後口までうまい味・香り」や、たばこらしさを醸し出すコルク模様のフィルターは継承しています。

●パッケージは、メンソール製品である点と、キャビンの喫味特長のひとつ「キレ味のよさ(後口のよさ)」を瞬時に分かりやすくお伝えするために、グリーンメ

タリックのフルカラーリングに新しいシンボルマークを付加し、斬新かつ大胆に表現しました。

「ホープ・メンソール」

●タール8mgの強メンソール製品です。日本で唯一のコンパクトなメンソール製品は個性的な喫煙をお楽しみいただけます。

●ホープならではの70mm巻きサイズが強いメンソール感とたばこらしい吸いごたえを両立させています。

●携帯性に優れ、例えば、「時々メンソール製品を」というお客様にも気軽にお楽しみいただけます。

●パッケージは、ホープの本物感や記号性の高いシンブルさを継承し、「アローマーク」をグリーンのグラデーションにすることで、メンソール製品としての新鮮さや清涼感を感じていただけるよう仕上げました。

「ルーツ ファインエッジ 微糖」

6月7日からリニューアル新発売

●「ルーツ ファインエッジ 微糖」は、甘さを控えたすっきりキレのある後味と、香り豊かな深いコーヒー感を追求した微糖コーヒーで、昨年6月の発売以来、ご好評をいただいております。

●今回のリニューアルでは、従来品のコーヒー豆のブレンドを改良し、中南米産コーヒーをベースに、

香り高いモカと力強いコクのマンデリンにより、さらに香り豊かなコーヒー感を実現しました。

●パッケージは、「シャープなキレ」と「しっかりしたコーヒー感」を銀と黒のテクスチャで表現した、シンプルかつ品質感あふれるデザインです。



リニューアル

185g缶 115円

※価格は希望小売価格（消費税別）です。

「烏龍烏龍」

6月28日から新発売

●「烏龍烏龍」は、「ゴクゴク飲める爽快さ」と「飲みごたえ」を両立した夏にぴったりの烏龍茶です。香ばしい香りとコクのある旨みの特徴の「鉄観音」茶葉を100%使用し、すっきりした飲み口を引き出しました。

●パッケージは中国人有名デザイナー、アラン・チャン氏を起用。“Oolong”の“O”を形取った龍のモチーフで茶葉の持つ躍動感と爽快感を、龍の尾で茶葉そのものを表現し、洗練されたインパクトと本物感を追求したデザインとなっています。



NEW

490gボトル缶 140円

※価格は希望小売価格（消費税別）です。

「チキンナゲット」

6月1日から全国で新発売

●チキンナゲットは、チルド市場を中心に大きな市場規模を持ち、チキンを使用した商材では定番のメニューとなっています。

●原料には国産の鶏肉を使用し、やわらかくジューシーなお肉と、衣のサクッとした食感が特徴の「チキンナゲット」です。



NEW

233g（ナゲット17g×12個＋ソース14.5g×2袋） 390円

※価格は想定小売価格（消費税別）です。

「カレー南蛮ピラフ」

6月1日から全国で新発売

●JTは2003年春の新商品以降、メニューのバラエティー化が進んでいる冷凍食品米飯市場に向けて、主食としてだけでなく、中高生の塾前食や主婦の昼食としてもご利用頂ける商品を提案してきました。

●「カレー南蛮ピラフ」は、お蕎麦屋さんのカレーとして知られる和風のカレー味のピラフです。かつお節を効かせた「だし」と醤油をベースに、マイルドなカレー粉を使用し、具材と煮込んだカレーを一晩ねかせてからご飯と合わせました。



NEW

450g 460円

※価格は想定小売価格（消費税別）です。

チャレンジ

～第3のシガレット革命～

D-spec

(低臭気たばこ)

Revolutionに挑む! 前編

約4000種類の煙成分から、
「たばこの気になるニオイ」だけを消し去る
——過酷な命題に挑んだ研究者たちの闘い



たばこを吸われる方と吸われない方の共存に向け、
JTが全社をかけて開発に臨んだ
「D-spec (低臭気たばこ＝気になるニオイを抑えたたばこ)」。
昨年2月に発売された
「ルーシア・シトラスフレッシュ・メンソール」を
はじめとした「D-spec」が市場に投入されるまでには、
開発にかかわった社員一人ひとりの積極果敢な
チャレンジ精神と、ねばり強い研究者魂があった。
数ある難題を克服し、未踏の新境地に挑んだ、
チャレンジャーたちの軌跡を追う!

1996年10月

先端プロジェクトの
精鋭集まる

事の始まりは1994年12月。JTでは世の中の動きをマクロ的に把握し、「21世紀に求められるたばこのコンセプト」を創出するための社内特別チームが編成され、膨大な回数のミーティングの末に約1年後に一つのテーマが絞り込まれた。そのテーマは「気になるニオイを抑えたたばこ」。この報告を受けた経営側は「気になるニオイを抑えたたばこを最優先でつくる」ことを決断した。

半年後の1996年10月。開発を担う先端プロジェクトチームの立ち上げメンバーとして抜擢されたのは東信和（現・研究開発統括部研究開発企画部主任研究員）と深町征臣（現・研究開発統括部製品保証グループ研究員）であった。たばこの煙成分の分析と香気味の研究をしていた東は入社3年目、大学の博士過程で香りの研究をしていた深町は入社1年目のともに28歳。既成概念のない柔軟な発想の若手に任せてみようという経営の方針により抜擢された精鋭であった。

ヤーたちの

1997年4月

【「たばこの何がくさいのか」
を突き止める】

1997年4月には、アメリカの研究所で約2年間、「味とにおいをどうやって評価するか」の研究をしていた志方比呂基（現・たばこ中央研究所シニアリーダー）が仲間に加わった。志方たちは最初に、「気になるニオイを抑えたたばこをつくる」という、何から手をつけていいかわからない課題の答えを見つけるための方針を定めた。

一説によるとたばこの煙成分は約4000種。組み合わせでいったら天文学的数字であり、「複雑過ぎてわからない」というのが定説であった。東たちはまず初めに、この気が遠くなるような課題の答えを見つけるための方針を決めた。出した答は、香料を混ぜ、どうにかたばこの気になるニオイを分からなくしてしまうといった付け焼き刃的な手段ではなかった。「もともとたばこのにおいとは何ぞや」、「たばこの何がくさいのか」を突き止めるという、根本的な問題の解決から始めることにした。

まずはたばこの煙成分を「においがある」と「ない」ものに分

け、「においがある」成分を一つひとつ分析する。そして「においがある」成分の中から、「たばこの気になるニオイ」をもたらしている「強いにおい」を探していくという作業をたどった。やることは一つ、たばこのにおいをひたすら嗅ぐこと。ガスクロマトグラフ(*)で煙成分を分離し、成分のにおいを一つずつ嗅ぎ、臭気成分を確認した。臭気成分は強いにおいを発するため、分析機器が検知できないような微量でもにおう。それゆえ、「においはすれども姿は見えず」という状況が頻発する。姿が見えなければ特定はできない。何十回もおい成分のサンプルを集め、分析するに足るだけの一定量を確保することで一つひとつ、成分の特定を行っていった。

1998年秋

【「気になるニオイ」だけを
消す香料を探せ！】

1年半の作業を経て、ようやくたばこの中の「強いにおい」を絞り込むことができた。さらにこの中で、数は少ないが、突出しておう「強いにおい」。これが「たばこの気になるニオイ」をもたら

している原因成分だった。今度は、この「強いにおい」を少なくするにはどうすればよいか？ そのまま除去するなどいくつかの方法が議論されたが、結局、この「強いにおい」だけを選択的にマスキング（においをほかのにおいで覆い隠す方法）していけば、たばこ本来の味を保ちつつ、「たばこの気になるニオイ」を少なくできるのではないか、という結論に至った。

マスキング香料の開発を主に担当したのは、入社3年目の大森史裕（現・たばこ中央研究所研究員）であった。大森はまず、たばこ煙中の悪臭成分を選択的にマスキングする香料を探し始めた。ローズマリーやシナモン、ペパーミント……。膨大な数の天然抽出香料を試した結果、果たして、あるシトラス系果実の抽出液の効果が絶大であることを発見した。穏やかな香り立ちながら見事にたばこのにおいを低減することに成功したのである。いよいよマスキング香料のもととなるものを突き止めたのだ。トンネルの出口は見えてきた。（次回に続く）

*ガスクロマトグラフ……「クロマトグラフィー」とは混合物の分離に用いる方法。多数存在している成分を一つひとつ分離していく技術を使う。そのために使う器具が「クロマトグラフ」。「ガスクロマトグラフィー」は気体の分析などに主に利用されている。

MEET
YOUR
DELIGHT

跡

株式の諸手続について

●名義書換をするには？

新たに株式を購入されたり、保管振替制度のご利用を取りやめられた時には、お早めに名義書換の手続きをお取りください。名義書換の手続きがお済みでない場合には、株主総会の招集ご通知をはじめとした各種郵送物がお手元に届かないばかりでなく、配当金等のお支払いについても以前の名義の方に支払われることになります。

◎名義書換の手続き

①三菱信託銀行にお越しいただく場合

三菱信託銀行の本支店へ、株券と印鑑（お届出印となります）をご持参ください。その場で名義書換請求書にご記入していただき、いったん株式をお預かりして手続きをさせていただきます。手続きが終了し、お手元に株券が戻るまでには10日前後かかります。**書換手数料は不要です。**

②証券会社を通じて行う場合

証券会社でも名義書換を依頼することができます。必要なものは三菱信託銀行にお越しいただく場合と同じですが、**書換手数料**がかかり、また場合によっては**手続きに時間がかかることもありますので、手数料額・所要日数等詳しくは当該証券会社におたずねください。**

③郵便をご利用の場合

名義書換請求書を郵送するなど、名義書換に郵便をご利用になることもできます。詳しくは三菱信託銀行にお問い合わせください。

●住所変更をするには？

株主総会招集ご通知、郵便振替支払通知書（配当金通知書）等のご登録の住所宛に送付させていただいております。引越し等により、ご住所に変更があった場合には、当社の名義書換代理人であります三菱信託銀行へ速やかにお届出をお願いいたします。

◎住所変更の手続き

①三菱信託銀行にお越しいただく場合

三菱信託銀行の本支店へ、お届出印をご持参ください。その場で変更届にご記入し、ご提出していただきますと、手続きをさせていただきます。手数料は不要です。

②郵便をご利用の場合

三菱信託銀行にお電話いただきますと、変更届をご送付いたしますので、必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。株券のご提出は不要です。ご返送の費用についてはご負担いただくこととなりますが、それ以外には手数料はいただきません。

●配当金の受取方法は？

①配当金のお受取方法の種類

配当金のお受取方法については、現金受取と口座振込がございます。**口座振込をご選択いただきますと安全かつ確実に配当金をお受け取りいただけます。**

現金受取をご選択の株主さまには、郵便局で受け取りができる証書（郵便振替支払通知書）を送付いたしますので、お近くの郵便局でお早めにお受け取りください。

口座振込をご選択の株主さまには、あらかじめご指定いただいた銀行・郵便局等の口座に配当金が直接振り込まれます。また、利益（中間）配当金計算書が送付されます。

②現金受取から口座振込への変更

現在、現金受取を選択されており、これから金融機関等への口座振込を希望される株主さまは、当社の名義書換代理人であります三菱信託銀行へご連絡ください。

●配当金関係の書類が届かない場合、または郵便振替支払通知書を紛失した、あるいは払渡し期間を過ぎてしまった場合は？

上記の理由等により、配当金をお受け取りいただけなくなっている株主さまは、三菱信託銀行へご連絡ください。

株式の諸手続についてのお問い合わせ先は

当社株式の手続きにつきましては、下記、当社の名義書換代理人であります三菱信託銀行までお問い合わせください。また、同行本店ならびに全国各支店におきましても各種手続きのお取り次ぎをいたしますのでご利用ください。なお、住所変更、配当金振込指定・変更に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求につきましては、フリーダイヤル（0120-86-4490）で24時間承っておりますので、ご利用ください。

●お問い合わせ先

三菱信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-707-696

（受付時間 土・日・祝日を除く 9:00～17:00）

郵便物送付先

三菱信託銀行株式会社証券代行部

〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

各種手続用紙のご請求

フリーダイヤル 0120-86-4490

（三菱信託銀行 24時間テレホン自動音声応答サービス）

取締役

執行役員

代表取締役会長	涌井	洋治
代表取締役社長	本田	勝彦
代表取締役副社長	寛	正三
取締役副社長	堀田	隆夫
取締役副社長	小幡	一衛
取締役副社長	西澤	省悟
取締役	大森	哲治
取締役	金久保	憲明

監査役

常勤監査役	田中	寿
常勤監査役	住川	雅明
監査役	成田	正路
監査役	村山	弘義

社長		本田 勝彦
副社長	(財務・医薬事業・食品事業・印刷事業・特機事業担当)	寛 正三
副社長	(コソ TM ライセンス・監査・法務・総務・コミュニケーション担当)	堀田 隆夫
副社長	(企画責任者 兼 人事担当)	小幡 一衛
副社長	(たばこ事業本部長)	西澤 省悟
専務執行役員	(食品事業本部長)	金森 哲治
専務執行役員	(たばこ事業本部 副本部長)	牧野田 睦
専務執行役員	(たばこ事業本部 商品グループリーダー)	松永 康正
常務執行役員	(医薬事業部 医薬総合研究所長 兼 医薬科学責任者)	石黒 繁夫
常務執行役員	(食品事業本部 飲料事業部長)	伊東 映仁
常務執行役員	(コミュニケーション責任者)	勝浦 秀夫
常務執行役員	(たばこ事業本部 研究開発統括部長)	熊倉 一郎
執行役員	(法務責任者)	下村 隆一
執行役員	(たばこ事業本部 製品開発統括部長)	佐藤 活文
執行役員	(たばこ事業本部 営業統括部長)	西原 孝治
執行役員	(食品事業本部 事業企画部長)	塩澤 義介
執行役員	(総務責任者)	山田 良一
執行役員	(食品事業本部 食品事業部長)	小林 一夫
執行役員	(たばこ事業本部 事業企画室長)	小泉 光臣
執行役員	(たばこ事業本部 製造統括部長)	飯島 謙二
執行役員	(たばこ事業本部 渉外企画部長)	佐藤 誠記
執行役員	(たばこ事業本部 原料統括部長)	久野 辰也
執行役員	(人事責任者)	村井 良行
執行役員	(財務責任者)	新貝 康司
執行役員	(医薬事業部長)	大久保 憲朗

(2004年6月24日現在)

(1994年10月27日上場～2004年5月末 当社株価(東証終値))



■株主メモ

決算期
定時株主総会
利益配当金支払い株主確定日
中間配当金支払い株主確定日
広告掲載新聞
名義書換代理人
同事務取扱場所

お問い合わせ先 郵便物送付先

同取次所
各種手続用紙のご請求

3月31日
6月
3月31日
9月30日
日本経済新聞
三菱信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル 0120-707-696
(受付時間 土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
三菱信託銀行株式会社 全国各支店
住所変更、配当金振込指定・変更に必要な各用紙および
株式の相続手続以来書のご請求は、
名義書換代理人のフリーダイヤル(0120-86-4490)で24時間承っておりますので、
ご利用ください。

MEET
YOUR
DELIGHT 

日本たばこ産業株式会社

〒105-8422 東京都港区虎ノ門2-2-1 JTビル

電話：03-3582-3111

<http://www.jti.co.jp/>



このパンフレットはエコマーク認定の再生紙(古紙100%)を使用するとともに、大豆油インキを使用しています。